

## 実践事例（４）

### 第５・６学年 国語科～「読むこと」領域の指導（同単元類似内容指導）～

#### １ はじめに

本校は、全校児童１３名の極小規模校である。恵まれた自然環境の中で育ち、素直でまじめな児童が多い。一方、多くの児童が自分の気持ちや考えを自分の言葉で伝えることを苦手としており、学習面では、文章を正しく読み取る力や語彙力が不足していると感じられる。

過疎化が進むという地域の状況から児童数が年々減少し、本校は、今年度で閉校することが決まっている。子どもたちは、来年度、統合先の小学校に通うことになる。そこで、自分の思いを自分の言葉で豊かに表現することができるよう、表現力の育成に焦点をしぼり、日々の実践に取り組んでいる。

今年度は、１年生の在籍がなく、３学級で編成されており、そのうち２学級が複式学級である。本学級は５年生５名、６年生３名の計８名である。今回、国語科の物語教材において、単元を通して言語活動を位置付けることを意識した、同単元類似内容指導の実践事例を紹介する。

#### ２ 実践例

##### （１） 単元名

| 第 5 学 年                            | 第 6 学 年                                 |
|------------------------------------|---|
| 作品を自分なりに捉え、物語を紹介しよう<br>「大造じいさんとガン」 | 作品の世界を深く味わい、物語を紹介しよう<br>「やまなし／イーハトーヴの夢」 |

##### （２） 単元の目標

| 第 5 学 年  | 第 6 学 年  |
|--|--|
| ○ 複数の本や文章を読み、登場人物の心情の変化や、心情を暗示する情景描写などを捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる。 | ○ 複数の本や文章を関連付けて読み、情景や作品に現れた作者の思いを捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる。 |

##### （３） 単元の評価規準

| 第 5 学 年   | 第 6 学 年   |
|---|---|
| ○ 本を紹介するためのブックポスター作りに関心をもち、意欲的に教材文や選んだ本を読もうとしている。（国語への関心・意欲・態度） | ○ 「やまなし」の情景や言葉の使い方に興味をもち、宮沢賢治の作品や生き方を知ろうとしている。（国語への関心・意欲・態度）                |
| ○ 登場人物の心情の変化や、心情を暗示する情景描写などを捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめている。（読む能力）     | ○ 場面と場面の対比や、別々の作品の表現の比較などにより、情景や作品に現れた作者の思いを捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめている。（読む能力） |
| ○ 様々な表現の工夫があることを知り、   | ○ 様々な表現の工夫があることを知り、そ  |

その効果について意識している。(言語についての知識・理解・技能)

の効果について意識している。(言語についての知識・理解・技能)

(4) 指導観

- 本学級の児童は、男子2名、女子3名、計5名の学年である。1学期の「新しい友達」の学習では、登場人物の心情の変化を叙述に即して読み取ることを経験した。しかし、登場人物の心情やその変化を読み取ることが十分ではなかった。
- 本単元では、「自分の選んだ椋鳩十の作品について、ブックポスターで友達に紹介すること」を言語活動に位置付けた。単元の学習を通じて、想像を広げながら読み、中心人物の気持ちの変化や内面にある深い心情を読み取ったり、心情を暗示する情景描写を読み取ったりする力を付けさせたい。そのために、まず共通教材「大造じいさんとガン」で、大造じいさんの心情の変化や人物像、心情を反映した情景描写などを自分なりに捉えながら読み取らせていきたい。そして、「心に残った場面」について考えを述べ合う場を設定し、それぞれの考えを深めさせたい。
- 本時は、大造じいさんの心はどこで変わったのか、なぜ変わったのかを文中の叙述を基に読み取らせていく。まず、音読を通じて、大造じいさんの言葉や残雪の行動を表す言葉を再確認させる。次に、ワークシート等を活用し、課題に沿って自力解決する時間を十分に確保する。話し合う活動では、自分とは異なる友達の意見に触れることを重視させ、一人一人が新たな発見をポスター作りに反映させられるようにしたい。

- 本学級の児童は、男子1名、女子2名、計3名の学年である。6年生はこれまで、4月に「カレーライス」の学習で、人物の心情を叙述に即して読み取る活動をした。しかし、登場人物の気持ちを読み取ることが十分ではなかった。
- 本教材は、宮沢賢治の物語「やまなし」と資料「イーハトーヴの夢」から構成される。

「やまなし」は、五月と十二月の川の中の様子を、かへの親子の言動を中心として、かわせみとやまなしや、川の中の石や光の様子などの情景とを関わらせて読み深めていく作品である。五月と十二月の場面を常に対比させて読むことで、ストーリーだけでなく、描かれている情景や美しい言葉に目を向けるようになると考えている。また、5年生同様、「ブックポスター」による本の紹介を単元の言語活動の中心に据え、宮沢賢治の作品に触れさせることで、作品同士を比べたり、宮沢賢治の考え方を作品の中に見いだしたりしながら、意欲的に読書活動を行っていくと考える。
- 本時は、「十二月」の谷川の様子を読み、「やまなし」の出現で変化していく「カニの親子」の様子や情景を読み取る時間である。前半は、ワークシートを活用し、前時で学習した内容を確認しながら、個人で課題を解決する時間を十分に確保する。後半は、互いの疑問や意見を出し合うことで、それぞれの考えを更に深めさせたい。

(5) 指導計画

| 第 5 学 年 (全 10 時間) |  |               | 第 6 学 年 (全 10 時間) |   |                    |
|-------------------|--|---------------|-------------------|---|--------------------|
| 次                 | 学 習 内 容  | 時数            | 次                 | 学 習 内 容   | 時数                 |
| 1                 | 重要語句等の意味調べは、事前に家庭学習でしておく。  |               |                   |   |                    |
|                   | ○ 教材に関連する本を選んで読み、視点に沿って読み取ったことを「ブックポスター」にまとめ、友達に紹介するという学習のめあてをもつ。  |               |                   |   |                    |
|                   | ○ 登場人物、情景を意識しながら全文を読み、物語のあらましを理解する。  | 2             | 1                 | ○ 全文を音読し、書かれている内容をおおまかに捉える。   | 2                  |
| 2                 | ○ 自分が選んだ本について、視点を決めてブックポスターにまとめることを想定し、次の点を捉える。<br>・ 物語の設定 (時・場所・人物) つりばりの計略やたにしの計略<br>・ 登場人物の心情の変化 (はやぶさと残雪の死闘の場面、大造じいさんが残雪を見送る場面)<br>・ 登場人物の心情と響き合う優れた情景描写 | 6             | 2                 | ○ 「イーハトーヴの夢」を読んで、作者宮沢賢治の考え方を知る。   | 2                  |
|                   | ○ 大造じいさんとガンを紹介する簡単なポスターを作る。  | 本時<br>その<br>4 | 3                 | ○ 自分が選んだ本について、視点を決めてブックポスターにまとめることを想定し、「やまなし」の五月の谷川の様子と、十二月の谷川の様子を対比して読み、両者の違いについて話し合う。<br>○ やまなしを紹介する簡単なポスターを作る。 | 4<br>本時<br>その<br>2 |
| 3                 | ○ 選んだ本のおもしろさが伝わるように、自分が決めた視点に沿ってブックポスターを作成する。<br>【視点の例】<br>・ 物語の設定 ・ 人物の心情の変化 ・ 優れた情景描写<br>・ 場面と場面の対比 ・ 優れた表現の比較<br>○ 完成したブックポスターを学級内で紹介し合う。                 |               |                   |   |                    |

(6) 本時の指導

① 目標

| 第 5 学 年                                       | 第 6 学 年  |
|---|--|
| ○ はやぶさと残雪の死闘の場面を中心に読み、大造じいさんの心の変化を読み取ることができる。 | ○ 「十二月」の谷川の様子を読み、「やまなし」の出現で変化していく「カニの親子」の様子や情景を読み取ることができる。 |

② 準備物

| 第 5 学 年            | 第 6 学 年            |
|--------------------|--------------------|
| 挿絵、センテンスカード、ワークシート | 挿絵、センテンスカード、ワークシート |

③ 展開

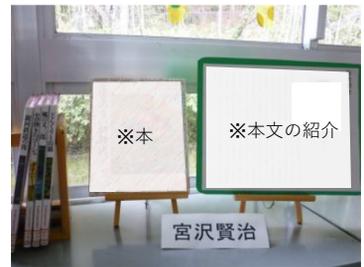
| 第 5 学 年  |  |      | 第 6 学 年                                  |  |  |
|--|--|------|--|--|--|
| 支援(○)評価(◎)   | 学習活動                                       | わたり  | 学習活動                                     | 支援(○)評価(◎)   |  |
| ○ 全員で協力して、教科書を見ないで、挿絵を順番に並べさせる。                          | 1 挿絵クイズを解く。                                |      | 1 学習のめあてをつかむ。<br>めあて<br>十二月の谷川の様子を読み取るう。 | ○ 本時の課題を確認する。<br>○ いつ、どこで、だれが、何を、どうしたかというようにまとめることを確認する。 |  |
| ○ 始め、中、終わりという順序に沿って、大造じいさんの心の変化を読み取ることが伝える。              | 2 学習のめあてをつかむ。<br>めあて<br>大造じいさんの心の変化を読み取ろう。 |      | 2 十二月の部分を音読する。<br>3 課題に沿って、自力解決をする。      | ○ リーダーを中心に順番で音読する。                                       |  |
| ○ 順番で音読する。<br>○ 大造じいさんの言葉や残雪の行動や様子を表す言葉に着目させ、教科書に線を引かせる。 | 3 3の場面を音読する。<br>4 課題に沿って、自力解決をする。          | 個別指導 | 4 書き込んだ内容を紹介し、交流する。(ガイド学習)               | ○ ワークシートを活用し、書き込んだ内容を発表させ、イメージをふくらませながら意見を交流する。          |  |
| ◎ 本文より、大造じいさんの心の   | 5 自分の考えを発表する。(ガイ                           | 個別指導 | 5 十二月の谷川の様子をまとめる。                        | ◎ 本文より、十二月の谷川の様子   |  |

|   |                        |  |                  |   |
|---|------------------------|--|------------------|---|
| 変化を読み取ることができたか。<br>○ ワークシートをもとに自分の考えを発表させ、全体で交流する。<br>○ 本時のまとめをし、次時につなげる。 | ド学習)<br><br>6 本時を振り返る。 |  | 6 本時を振り返り、感想を書く。 | を読み取ることができたか。<br><br>○ 十二月の谷川の様子をまとめさせる。<br>○ 本時のまとめをし、次時につなげる。 |
|---|------------------------|--|------------------|---|

### 3 考察

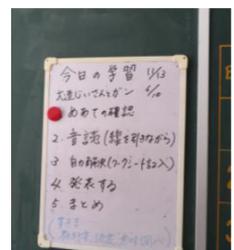
#### (1) 単元を貫く言語活動の設定

ブックポスターを作り、友達に紹介するという言語活動を設定することにより、児童自らが単元の見通しをもって学習を進めることができた。与えられた指示に従って学習を進めるのではなく、児童自らがめあてや見通しをもって学習することは、間接指導が多くなる複式学級で授業を進める上で大変有効であった。また、共通の言語活動を設定することで、異学年を含めたより多くの人の中で、自分の思いや考えを伝え合うことができた。友達の紹介を聞いた後、教室に設けた椋鳩十や宮沢賢治コーナーの本を手にして、読書活動への意欲を見せる児童がいた。また、ブックポスター作成を目的として並行読書を行うことで豊かな読書活動につなげることができた。



#### (2) ガイド学習

間接指導時は児童自らが司会者となり話し合いを進めるガイド学習を取り入れた。司会役になった児童と、事前に打合せをし、マニュアルをもとに話し合いを進めさせた。児童の中には、司会役になるのをとても楽しみにしている子もいる。また、ガイド学習の進め方のマニュアルとともに全児童に学習の流れが分かるよう学習の手順を示した。これらにより、児童は見通しをもって自ら学び、主体的に学習に取り組むことができた。



#### (3) 交流の場の設定

単元の始めと終わりは、5・6年生合同での授業を実施した。完成したブックポスターを紹介し合う場面では、これまで学んだことを発表したり、感想を述べたりすることで互いの交流が深まり、新たな発見があったり、ものの見方・考え方の違いに気付いたりすることができた。

### 4 おわりに

複式学級では、児童が自ら主体的に学ぶことが大切である。本実践では、単元を貫く

言語活動を設定したことが、児童が見通しや目的意識をもち、主体的に学ぶことにつながっていたと言える。今後は、児童の実態に即し、どんな力を身に付けさせるために、どの単元で、どのような言語活動を取り入れるか、見通しをもった年間指導計画の作成が必要である。

今後は、児童の主体的な学びを更に保障しながら、子どもたちに少しでも多くの時間関わり、直接指導を充実したいと考える。